

2. 代表的な活動の事例 — 功労者表彰受賞者の活動事例から抜粋 —

2-1 社会貢献活動推進月間中央行事における発表事例

令和4年度に顕彰した活動事例のうち、「建設業社会貢献活動推進月間中央行事」で事例発表された3事例を紹介します。

No.	都道府県	協会・支部・企業名等	活動内容
1	岡山県	一般社団法人 岡山県建設業協会	新型コロナワクチン職域接種の実施
2	三重県	一般社団法人 三重県建設業協会 伊賀支部	県立高校の建築系学科復活への取組と同校への フォローアップ支援活動
3	富山県	前田建設・スター総合建設・ 牧野工業共同企業体	SDGsをテーマにした出前教室及び現場見学会

その他

発表事例

1

岡山県

新型コロナワクチン職域接種の実施（一般社団法人 岡山県建設業協会）



令和3年6月1日に厚生労働省から職域接種の開始の連絡を受けて、岡山県建設業協会はいち早く職域接種に取り組むことを6月14日の理事会で決定した。

紆余曲折はあったが、10月下旬までに7,000人規模の接種を無事行うことができた。

人数としては当初予定していた14,000人からは半数ほどになったが、接種日程が遅れたことから、12歳以上の若年者や妊婦さんまで接種が可能となり、建設労働関係者の皆さんが家族ぐるみで接種会場に来ていただくことができた。

岡山県の関係者からは、当協会の職域接種により県のワクチン接種率が増加したことを評価していただいた。今回の職域接種を通じて、準備等は試行錯誤の連続で大変だったが、多数の建設業従事者の方や関係者の皆様から、いち早くワクチン接種ができて良かったと喜ばれている。

概要

地域	接種時期		接種者数 (人)	会場名	接種医療機関
	1回目	2回目			
備前地区(県南部)	8月28日(土)	9月25日(土)	1,000	株荒木組	岡山博愛会病院
	8月29日(日)	9月26日(日)	1,000		
	小計		2,000		
備中地区(県西部)	9月4日(土)	10月2日(土)	1,000	株荒木組	岡山博愛会病院
	9月5日(日)	10月3日(日)	1,000		
	小計		2,000		
美作地区(県北部)	8月25日(水)～10月13日(水)の間で 少人数ずつ実施		1,000	津山中央病院	津山中央病院
	小計		1,000		
全域 荒木組 関連会社	7月 6日(火)	8月 5日(木)	1,000	株荒木組	岡山博愛会病院
	7月13日(火)	8月12日(木)	1,000		
	小計		2,000		
合計	7月 6日(火) ～ 10月13日(水)		7,000		

(1) ワクチン職域接種に取り組んだ目的

① 建設労働者の熱中症対策

暑い時期にはマスクを外して作業に従事する必要があり、早期にワクチン接種の必要があった。

② 業界団体としての中小零細企業支援

産業医のいない中小零細企業を包括する形で職域接種を実施し、新型コロナウイルス感染防止対策に取り組んだ。

③ 建設業は事業継続しなければならないエッセンシャルワーカー

建設業は道路啓開等の際に自衛隊や警察・消防等が活動する前提条件を整える活動に従事する特別な職種であり、危機管理や災害対策に関して、どんな場合にも事業継続しなければならない産業であることから優先して接種を行うこととした。

(2) 職域接種に取り組んで良かった点

① 接種対象者を広い範囲の建設労働者としたこと

会員企業の従業員とその家族、協力企業を対象とし、中小零細企業の従業員を優先したこと、ワクチン配送が滞っている中でも比較的早く接種でき、作業工程の関係から、個人的に接種日を決めにくい従業員も会社からのアプローチがあったので、接種に行きやすい環境をつくることができた。

② ワクチンの配送遅延により接種対象者が拡大したこと

接種対象者の範囲が、妊娠中・授乳中の方や高校生・中学生などにも順次拡大されたことから、接種可能な家族全員が接種できるようになり大変に喜ばれた。

③ 多数の外国人労働者もスムーズに接種できたこと

日本語で予診票が書けない人もいた中で、協会職員が受付でしっかり対応をした結果、100人を超える外国人労働者に対して接種を実施することができた。

④ 県の接種率UPに寄与したこと

ファイザー製ワクチンが滞る中、モデルナワクチンを積極的に接種したことで、県全体の接種率を引き上げたことに対し、県の方から感謝された。



経緯

6月1日	新型コロナワクチンの職域接種の開始について(厚労省)	7月12日	国土交通省あてにワクチン接種に関するお願いを発出
	新型コロナワクチン接種に関する調査について(全建)	7月15日	協会理事にあてて、ワクチン職域接種に関する経緯と現状を送付
6月4日	上記アンケート調査へ回答(県全体で18,000人の職域接種)	8月5日	妊娠中・授乳中の方にもワクチン接種が可能と厚労省から連絡
6月8日	職域接種の申請受付開始(1,000人以上 都道府県→厚労省)	8月6日	各支部長あてにワクチンの配送が可能となったことを連絡
	岡山県が職域接種企業等向け説明会(協会参加)	8月16日	ワクチン保存用冷凍庫、ワクチンを順次配送するとの連絡
6月14日	職域接種実施について臨時理事会を開催	8月19日	ワクチン接種希望者等ヘリストの作成依頼及び注意事項の通知
6月16日	岡山建協が1万人以上の職域接種を実施との記事が業界紙に掲載		その後、職域接種を受ける者への接種時期及び時間帯を通知
6月18日	職域接種に関する事務長会をWEB開催	8月26日	異物混入による配送済みワクチンの使用見合わせの連絡あり
6月21日	県内3会場での職域接種(13,680人)を国へ申請 備前会場(株荒木組 6,000人) 備中会場(K医科大学 5,120人) 美作会場(T病院 2,560人)	8月27日	急遽、代替ワクチンが納入され翌日の接種に間に合う
	当初、接種会場の待機場所を観光バスとし、バスの中で接種前の予診票確認及び接種後の状態確認を想定していた	8月28日	第1回ワクチン接種開始
6月22日	国交省建設業課から職域接種の取組事例等の情報提供	9月5日	第1回ワクチン接種終了
	都道府県レベルでの実施団体は岡山県協会のみ	9月25日	第2回ワクチン接種開始
6月25日	ワクチンの配送が停止したため職域接種の申請受付が停止	10月3日	第2回ワクチン接種終了
6月30日	国土交通省から厚生労働省に対してワクチン供給の依頼	11月上旬	残余ワクチン・冷凍庫の回収
		12月24日	県から職域接種事業補助金の交付決定通知書が届く 補助金交付決定額 6,079,000円(申請どおり認定)

実施にあたってのポイント

(1) 医療従事者の調達

職域接種を行う企業には以下のことが求められていた。

- ① 医師・看護師等の医療職の他、会場運営のスタッフ等、必要な人員を企業や大学等が自ら確保すること。

また、副反応報告などの必要な対応を行うことができること。

- ② 接種場所・動線等の確保についても企業や大学等が自ら確保すること。
③ 社内連絡体制・対外調整役を確保すること(事務局を設置すること)。
④ 同一の接種会場で2回接種を完了すること、最低 2,000回 (1,000人×2回接種) 程度の接種を行うことを基本とする。
⑤ ワクチンの納品先の事業所でワクチンを保管の上、接種すること。



(2) 協力部署

① 国土交通省建設業課

国土交通省に対して職域接種を推進するよう依頼しながら、接種時期に遅れを生じた厚生労働省予防接種室に対し強く抗議していただいた。

最終的には、協会は予防接種室ではなく建設業課と直接やり取りができるようになり、協会の要望が通りやすくなった。

② 全国建設業協会

業界紙に対して協会が行う職域接種の取材をするよう要請するとともに、委員会での発言や広報誌での成果の発表の場を提供していただいた。特に業界紙3社の報道を機に地元一般紙等でも協会の職域接種が取り上げられ、接種希望者の増加につながった。

③ 岡山県総合政策局政策推進課

国交省から出向していた課長に、厚労省、県のワクチン対策室に対して質問の窓口となってもらうとともに、国交省にも協会の意向を伝えてもらった。

④ 地元国会議員・職域の国会議員

河野大臣(当時)に対し地元国会議員から、建設業はエッセンシャルワーカーであり、他の産業に先んじて接種を急ぐよう直談判をしていただいた。

職域の先生からは、会長のみならず専務理事にも激励の電話をいただいた。

⑤ 岡山県保健福祉部長

県が、建設業をエッセンシャルワーカーとして認めない中で、終始協会に対して前向きな対応をしていただき、協会の職域接種に貢献するという認識を示していただいた。

(3) 経費について

内 容	目的・用途	支払金額(円:税込)
医療従事者の昼食代等	医療従事者の昼食等	233,653
除菌用品等	除菌アルコール、消毒液等	23,443
受付・会場誘導(8月分)	接種会場での受付及び誘導等の運営委託料	472,340
受付・会場誘導(9月分)	接種会場での受付及び誘導等の運営委託料	1,044,120
受付・会場誘導(10月分)	接種会場での受付及び誘導等の運営委託料	546,920
駐車場誘導・警備	駐車場の誘導及び警備委託料(全接種日8日間)	2,156,000
駐車場誘導・警備	上記装備品:コーン、無線機、看板	242,000
殺菌消毒作業	ワクチン接種会場の殺菌消毒作業委託料	756,250
VRS入力作業	VRS読み取り作業	195,580
会場機材レンタル	ベッド、パーテーション、パネル等一式	408,980
合計		6,079,286

地域活性化への取組

発表事例

2

三重県

県立高校の建築系学科復活への取組と同校へのフォローアップ支援活動

(一般社団法人 三重県建設業協会 伊賀支部)

三重県立高校の学科再編により伊賀地域の高校から土木・建築関係学科がなくなってしまったことから、建設業関連団体が連携し、学科復活を要望した結果、平成元年度に県立伊賀白鳳高校「建築デザイン科」が復活した。そのような経緯もあり、同校とは協力支援関係が続いてきた。

折しもコロナ禍で実習等もままならない中、学校側から「生コンクリート打設の実際」を映像化し学科生徒に見せたい、との要望を受け、それを実現させたもので、学校敷地内の中庭において、三重県建設業協会伊賀支部（以下、当協会）会員が、出演・施工・撮影・編集/DVD化に至るまで担当教諭と連携し実施した。映像編集は学校側に依頼し仕上げを行い、出来上がったDVDは三重県建設業協会YouTubeChannelを通じ配信している。<https://www.youtube.com/watch?v=XknkCrbChMo>

DVD化したことで、県内の土木・建築関係学科を有する高校4校から活用したいとの要望があり、各校へDVD教材として提供されている。

同校と当協会とは「木材加工の実際」を製材所現場と学校の教室を繋ぐネット授業を行ったり、生徒が実習時に使用するヘルメットを当協会より贈呈するなど、かかわりを続けている。

令和4年3月には、建築デザイン科の第1回卒業生として39人輩出し、そのうち12人が地元へ就職した（土木・建築関連企業には5人）。今後もこのような関係が続けることで、地元建設業の後継者不足・若年従事者不足解消への一助になるとともに、当協会の存在意義へと繋げていきたいと考えている。

県立高校の建築系学科復活への取組

■ 伊賀地域の建設企業が抱える課題

少子高齢化が進み、若年建設従事者の確保が困難である。

地元建設企業は後継者不足により企業存続の危機である。

伊賀地域において、土木・建築系の技術者を養成する高校がない。

地元建設企業が地域の安全・安心の守り手としての使命を果たせない。

■ 伊賀白鳳高等学校に「建築科・土木科の設立」要望のため伊賀地域建設産業16団体を結成

平成28年3月 三重県建設業協会伊賀支部が中心となって

三重県建築士事務所協会伊賀支部 三重県建築士会伊賀支部 三重県測量設計業協会 三重県建設労働組合上野支部
三重県建設労働組合名張支部 三重県電気工業工業組合上野支部 三重県電気工業工業組合名張支部 伊賀市建設業協会 上野建設業組合 伊賀建築業組合 名張建設協会 伊賀市上下水道協同組合 名張市上下水道協同組合 青山建設業協会協同組合 名張土木協力協同組合

■ 伊賀白鳳高等学校に「建築科・土木科の設立」の要望書提出

平成28年3月22日 県の鈴木英敬知事・山口千代己教育長、
県議会の中村進一議長へ

平成28年3月23日 伊賀市 岡本栄市長へ

平成28年3月28日 名張市 亀井利克市長へ



■ 伊賀白鳳高等学校に「建築科・土木科の設立」のための協議会開催

平成28年3月23日他（複数回） 伊賀白鳳高等学校と伊賀地域建設産業16団体と関係諸官庁等

平成30年5月30日他（複数回） 地元県議会議員並びに市議会議員と伊賀地域建設産業16団体

平成31年4月 工芸デザイン科から**建築デザイン科**に改編



フォローアップ支援

- 1つ目は、伊賀地区の各中学校に対して、生徒の建築デザイン科志望を依頼
- 2つ目は、中学校・高等学校を対象に「現場見学会」を開催
- 3つ目は、中学生・高校生を対象に「インターンシップ」の受入
- 4つ目は、伊賀白鳳高等学校への「出前授業」等の実施

■ 出前授業（伊賀白鳳高等学校）

令和2年7月21日

第1回 木材について：
製材工場から教室へリモートで
授業を実施



令和3年9月7日

第2回 土間コンクリート：
高校敷地内でビデオ撮影



令和3年12月13日

伊賀白鳳高等学校教室にて
「ヘルメット贈呈」並びに「安全講座」



- [今後の予定及び計画]
- 第3回 アスファルト舗装：高校敷地内でビデオ撮影（令和4年10月31日）
 - 第4回 土間タイル張り：高校敷地内でビデオ撮影予定
 - 第5回 コンクリート強度試験：試験場からリモートを計画

■ 令和4年3月 第1回建築デザイン科卒業生39人を輩出

建築コース	23人	進学：12人	就職：10人（内地元企業6人）	その他：1人
デザインコース	16人	進学：9人	就職：6人（内地元企業4人）	その他：1人

その他

令和3年6月24日 三重県が、地域の皆さんとの協働の輪を広げ、地域の絆を深めることを目的として「みえ花と絆のプロジェクト」をスタート

令和3年10月23日 三重県伊賀建設事務所・伊賀白鳳高等学校・三重県建設業協会伊賀支部・地元自治会の協力で伊賀地域での「みえ花と絆のプロジェクト」を開催。三重県建設業協会伊賀支部は特注コンクリート製プランター26個を寄贈



SDGsをテーマにした出前教室及び現場見学会

(前田建設・スター総合建設・牧野工業共同企業体)

富山市立大久保小学校耐震補強工事の現場において、SDGsをテーマにした出前教室及び現場見学会を、在校生を対象に実施しました。(令和3年9月、10月実施)

事前に学校の各学年の教諭と打合せをし、年齢や興味に合った内容を選び、SDGsの観点から建設業の仕事とその魅力を伝えました。

富山市が推進するSDGsについて、児童が興味・関心を深め、働くことの意義を考える機会にもなり、その中で「建設業に携わりたい」という声が多く聞かれたことに大きな成果を感じました。出前教室終了後に、全校児童から感謝の手紙やイラストを頂きました。

現場には、新入社員1名を含む若手社員が配属されており、児童とのやり取りを通して、若手社員自身が働き甲斐や建設業の誇りを感じる機会となりました。また、子どもたちに伝えることの難しさを実感し、現場代理人の資質の向上に繋がり有意義な機会となりました。

工事終了後、校長先生より出前教室について、児童の興味・関心・意欲の向上に結びつき、大久保小学校として継続的な学習教材になると感謝の言葉を頂いています。

弊社の主な取り組み

- ・LINEWORKSやZoomによる情報共有の効率化。
- ・SDGsの取組。
- ・女性現場代理人の活躍推進。
- ・インターンシップの積極的な受入。

富山県SDGs宣言

前田建設株式会社はSDGsの達成のため、以下について取り組むことを宣言しています。



SDGsをテーマにした出前教室


■ 出前教室のきっかけ（現場：大久保小学校耐震補強工事）

- 学校側 解体工事の騒音、粉塵が舞い上がる環境。
 コロナ禍で社会見学などが中止になる。
- 前田建設 求人活動に向けたPRとして工事評点アップを目指す。
 現場の新入社員の育成のための場にした。


大久保小学校の4年生の皆さんへ

- 早寝早起きをしよう。
- 給食を残さず食べよう。
- 学校を大事に使おう。

＝すべてSDGsにつながります。



- 工事現場も学校も世界もSDGsでつながる＝合言葉はSDGs



- 建設にきょうみをもってくれたらうれしいです。

16

大久保小学校5年生の皆さんへ

- 学校は安心・安全です。SDGsについて興味をもってください。



- Atarimaenokotowo Bakanisezu Chanto Dekirukotokara やろう (ABCDの徹底)＝工事の安全の徹底 当たり前の反対の言葉は？

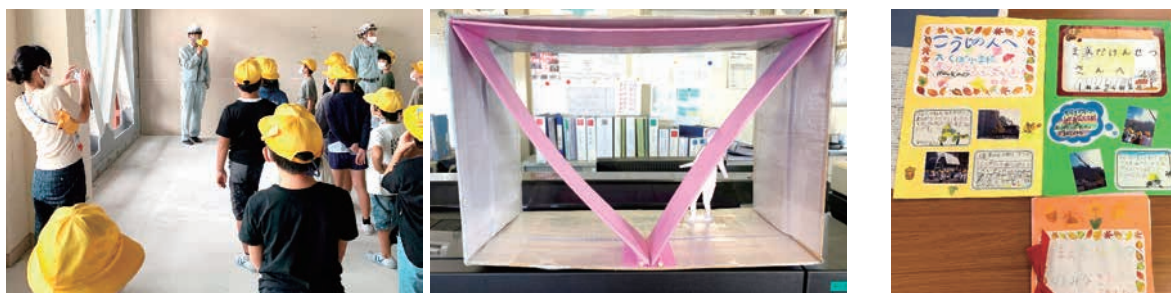


- 3月12日まで現場や事務所に遊びに来ててください。

17



出前教室の様子



新入社員(高卒1年目)の活躍

全校児童から
感謝の手紙とやり取り

■ 出前教室での成果

- ・現場で行っている活動とSDGsを結びつける。
- ・児童から学ぶ機会をもらう (= 共育)。
- ・新入社員や若手社員の教育に繋がる。
- ・現場で児童に見られているという意識が、より高い品質確保や社員の働きがいに繋がる。
= 効果的な現場運営。
- ・各報道機関に取り上げられ、求人の良い影響を及ぼしている。



今後の方向性について

- ・SDGsを社内と現場に浸透させ、社員・会社も持続可能な状態を続ける。
- ・2030年の社会を担う人材はSDGsが共通言語になっている (大久保小学校の子どもたち)。
- ・宣言者ではなく、実践者であり続け、誰ひとり取り残さない。
- ・SDGsという言葉がなくなり、それが当たり前になることが最終目的地(当たり前のABC)。
= 富山県の目指すウェルビーイングと合致する。